



てしまっているといいます。では両者はどう異なるのか。吉村さんは「触るリハ」「触らないリハ」という言葉で分かりやすく説明してくださいました。地域では病院で行うようなリハビリ(いわゆる体に触れるリハビリ)だけでなく、訪問リハの時間などを使って、訪問していないその他多くの時間に対してどう関わられるかを考えることが大事(触らないリハ)と強調されました。そういった視点を持つと、通所サービスについても、通所での身体機能と自宅での生活能力は違うことに気づくはずだ、そして送迎時は自宅生活を評価するチャンスになるのだと。筆者の勤務している佐久総合病院も訪問診療が盛んですが、やはり医療者が病院の外に出ると、色々な気付きがあるのだと思います。

引き続いて、青年海外協力隊で、タイで活躍された岩田研二さんより国際リハビリテーションについてのお話がありました。急速に高齢化が進むタイでは、通院困難な地域高齢者のためのコミュニティケアの強化が課題となっています。ニーズは高く、青年海外協力隊員のリハ職は応募数より要請数の方が多いケースも稀ではありません。リハ職として働いた彼らは帰国後 前職場に戻る人が多い一方で、国際協力に関わった経験を活かした場に戻りたいという思いもあり、モノが不足している現場で試行錯誤した経験をもとに被災地や離島で活躍する経験者も多いようです。

活動当初 1:1 のリハをしていた岩田さんですが、期間が決まっている協力隊員として、自分がいなくなってしまうことを考え「触らないリハビリ」に行きついた、といいます。

自分がいなくなっても道具は残ると考え、短下肢装具の導入や 3D 自主トレ(エクセルの活用)など様々な取り組みを紹介されました。色々と創意工夫を重ねる話は、自分の専門外であっても、聞いていてワクワクするものでした。

帰国後も、途上国の経験をシェアするカタチとして、「開発途上国リハビリレポーター」というメディアサイトを作り、情報発信をしたり、国際リハビリテーション研究会の運営に携わる岩田さんたちの現在の関心は「帰国後のキャリア形成」。まさにその方向性はとちノキネットワークと重なります。継続的に関われる場所を創出するために何ができるか。「地域保健 時々国際保健」はネットワーク内でもこれまで何度か話題に出るフレーズでもありました。

プレゼンの後半はフロアへの問いかけでした。

リハビリ療法士に期待する役割とは何か、という話では、街づくりにおいてリハビリ専門家の関わりが少ないという意見が出ました。

海外でまだリハビリの概念が定まっていないのでは、日本のリハビリ療法士が活躍できる場は多いのではという意見もある一方、いやいや現地のセラピストの技術力は高いケースも多い。むしろ1回ごとのリハビリに支払いが要求され、利用者が続けられない等のシステム上の問題が課題なのではという意見も出さ

れました。

どのようにロールモデルをどう作っていくかを考えているというお二人の問題提起に、フロアは色々な議論が湧き、予想以上に盛り上がりを見せながら、講演は終了しました。

JA 長野厚生連 佐久総合病院 坂本 昌彦

=====

国境なき医師団 海外派遣スタッフ募集説明会

=====

国境なき医師団（MSF）日本による、海外派遣スタッフ募集説明会です。  
派遣経験者が現場の活動報告を、採用担当者からは採用情報をお話致します。  
質問の時間もたっぷりあります。

MSF で働くことに関心のある方の参加をお待ちしております！

《札幌説明会》

日時：2017年8月19日（木）14:00-16:00

会場：北海道立道民活動センター

「かでの2・7」 730会議室（7階）

定員：40名（入場無料）

参加予定 MSF スタッフ：池田 知也 / 堀 正貴

詳細・お申込みはこちら

<http://www.msf.or.jp/work/infosessions.html>

=====

国立国際医療研究センター（NCGM）

国際保健基礎講座 参加者募集

=====

国際的に脅威となる感染症のプロジェクトに携わってきた専門家と「世界の感染症対策」について学びましょう！

日時：平成29年8月26日（土曜日）13:00～16:00（受付 12:30～12:50）

テーマ：『感染症 VS 専門家！』

場所：国立国際医療研究センター

国際医療協力研修センター3階 会議室

講師：国際医療協力局 医師 法月正太郎



URL. <http://tochinoki-net.com/index.html>

FB. <https://www.facebook.com/tochinoki.net/>

